

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300529		
法人名	社会福祉法人 清河会		
事業所名	グループホーム サングリーンピア山方	ユニット名	
所在地	〒319-3106 茨城県常陸大宮市西野内1537-1		
自己評価作成日	平成26年4月18日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873300529-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年5月28日	評価機関 決 済 日	平成26年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・3ヵ月に一度手紙にて家族へ生活状況の報告を行い、家族の不安の解消やホーム内での生活に対する理解をして頂けるようにしている。</p> <p>・三大大行事として、新春祝賀会・納涼祭・敬老会を開催して、たくさんの家族へ参加して頂き、利用者と家族が共に楽しく過ごせるように毎年盛大に行っている。</p> <p>・利用者の担当者の変更を行い、より良い暮らしを求めて、また、職員も常に向上心を持って現状に満足しないように努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は山間に立地しており、自然に恵まれたのどかな環境で四季折々の風景を楽しみながら暮らせる環境となっている。</p> <p>地域ボランティア「ゆかいな仲間の会」や月1回定期的にミュージックケア（音楽療法）の先生が来訪し、音楽に合わせて歌を歌ったり、太鼓や鈴、タオルを使って身体を動かすことで利用者の健康維持に役立てたり、季節毎の行事や外出ができ、利用者が生き生きと生活ができるよう取り組んでいる。</p> <p>訪問看護師が毎週水曜日に来訪して利用者の健康チェックなどをしたり、24時間電話で連絡ができる体制になっており、利用者の安心につながっている。</p> <p>職員は笑顔で利用者に接するとともに、利用者の表情が明るく笑顔の絶えない生活ができるよう支援をしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で話し合い理念を作成し、事業所内3ヵ所に掲示し、サービス実践時及び職員会議の時等理念に基づいたケアの実践確認を行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を管理者や職員で話し合って作成している。 理念を玄関や事務所、ホールに掲示するとともに、月1回の職員会議で確認し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアや慰問の受け入れ交流や地域の季節行事（小学校の運動会、お鹿島様作り、そば会、鳥追い祭り）へ参加し、積極的に参加している。	地域ボランティア「ゆかいな仲間の会」を受け入れているほか、月1回定期的にミュージックケア（音楽療法）を行うボランティアの先生が来訪している。 毎年近隣の小学校から運動会に招待されており、利用者は「玉手箱」の競技に参加したり、ハロウィンの行事で保育園児が来訪するなど、日常的に地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特になし。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果報告やサービス実践状況を報告している。帰宅願望者についてをテーマにした時、対応方法についての議論を頭に置いて、お年寄りの対応に当たっております。	運営推進会議は市職員や地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議では行事報告や事業所の状況報告をしたり、委員と活発な意見交換をしたりしている。 委員からは事業所で行われるレクリエーション「輪投げ大会」を見学したいとの意見が出たり、管理者からは事業所の避難訓練時に地域住民の参加を呼びかけている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヵ月に1回の運営推進会議へ市役所の支所長様へ参加して頂いたり、常陸大宮市グループホーム連絡協議会へ参加し、情報交換を行い、協力関係構築に取り組んでいる。	市職員が運営推進会議に毎回出席している。 月1回程度介護支援専門員が市役所に出向き、市担当者に相談をしたり、事業所の実情やサービスの取組みを積極的に伝えたりするとともに、情報交換をして協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を行いたいと思っているが、日中玄関のセンサー音に反応して、玄関より出て行ってしまう利用者が2名いらっしゃるので、日中玄関の施錠を行っている状況である。	「身体拘束のない介護のための指針」を事業所内に掲示するとともに、近隣にある同一法人の特別養護老人ホームで勉強会を実施している。 利用者が玄関のセンサー音に反応して外に出てしまうので、家族等の了解を口頭で得て玄関を施錠している。 職員で施錠について話し合い、不定期ではあるが短時間玄関を解錠したり、利用者が玄関から出ていく際には一緒に付いて行くなど、身体拘束をしないように努めている。	全職員で玄関の施錠について定期的に話し合い、書面による同意や経過観察記録、再検討記録を作成し、鍵をかけずに安全に過ごせる取組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の議題などに取り上げ、高齢者虐待防止について勉強する機会を持ち、職員間での共通の認識と理解を図るようにしている。また、日々のケアの中で見過ごされてしまいそうな虐待行為を職員間で注意を払い、徹底防止を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など権利擁護に関する制度を、個々の必要性に応じて活用できるよう、勉強する機会を設け、職員間で制度の理解を深めることが必要で課題である。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時において、契約書並びに重要事項説明書により、契約の締結、解約についてと利用料金について、利用者本人とその家族に対し十分な説明を行い、十分な理解と納得を図っている。また、内容に変更・改定が生じた際には、その都度文章にて知らせるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	無記名のアンケートについて内容を検討中であるが、実施するまでには至っていない。	重要事項説明書に苦情や相談窓口となる事業所の担当者と第三者委員を明記している。 家族等の来訪時には意見や要望を出し易いように声かけをしている。 前回の外部評価で「期待したい内容」に取り上げられた無記名アンケートについては、実施するまでには至っていない。	請求書送付時に年1回程度無記名のアンケートを返信用封筒と一緒に送付し、家族等の要望を汲みあげることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月1回の各部署の主任会議において、職員からの意見や提案を聞く機会を持ち施設運営に反映させている。	管理者は月1回の職員会議で職員から出た意見や提案を、月1回同一法人合同で行われる主任会議に提議し、意見や要望が反映できるように努めている。 管理者は職員の勤務変更に柔軟に対応したり、エアコンの故障に伴い交換するなど、職員から出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に一度、各職員に自己評価シートを記入提出を実施し、そこに記入されている各職員の意見や希望を職場環境・条件の整備の参考として、常に向上心を持って継続して働ける職場整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、一人でも多くの職員が法人内外研修に参加できるよう配慮している。また、月に一度研修報告会を法人内で開催し、外部研修で得た知識を報告し、職員間で共有できるよう図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	常陸大宮市グループホーム連絡協議会及び常陸大宮市介護支援専門員連絡協議会に加盟し、定例会に出席し情報交換などに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居利用を前に、訪問し本人に対し面談をして、傾聴と受容の姿勢で本人のニーズを引き出せるよう努め、さらに来所や体験利用を必要に応じて行い、本人が入居日を安心して迎えられ、グループホームでの生活を開始できるような信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談を通して、家族が望む本人の暮らしや抱える不安を把握できるよう耳を傾け、見学の機会も設けて利用でスムーズに安心して開始できるよう、入所の支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の面談において把握した本人とその家族のニーズや要望等を反映した個別支援計画書をグループホームの生活に馴染んでいくことができるよう作成するが、必要としている支援が他のサービスや社会資源にある時には、その情報を提供など対応するよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の大先輩である入居者である入居者を尊敬し、グループホームでの生活を共により良いものとするため、洗濯たたみや居室清掃等できることを共に行うようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会へは、家族へ参加して頂けるよう職員と家族と利用者で過ごす時間を設けたり、病院受診に協力して頂ける家族へは、付き添いをお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い入れのある写真を居室に飾ったり、時には家具を持ち込むことや、馴染みの床屋を継続利用してもらうことや、馴染みの人や場所との関係継続の重要性を認識して支援に努めている。	管理者は人や場所との関係の重要性を認識し、親戚や家族等に外出や外泊を働きかけ、親戚の家に外出したり、息子の家に外泊や外出したりして実践につなげている。 利用者の希望を家族等に電話などで伝え、家族等が墓参りや理・美容院などへ連れて行き、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう取り組んでいる。 居室担当職員は2ヶ月から3ヶ月毎に利用者の状況を手紙で家族等に報告している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士同じテーブルで食事をしたり、全員が参加できる音楽療法を実施したり、共に楽しい生活を送ることができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談があれば随時受付、利用終了後も本人と家族との関係性を断ち切らないようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別支援計画作成時または随時、アセスメントを行い、本人の希望や意向の把握を行っている。把握が困難な場合には家族等から情報を得るように努めている。	職員は利用者と日々の関わりの中でコミュニケーションを図り、情報を収集して一人ひとりの暮らしの希望や要望を記録し、全職員で共有するとともに、センター方式のアセスメントで利用者の希望や要望を把握している。 利用者から「ヤクルトを飲みたい」との要望を受けて事業所に配達してもらったり、「夜にお茶を飲みたい」や「コーヒーを飲みたい」とのことから提供するなど、利用者の希望や要望にそえるよう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用初期段階でのアセスメントで把握し、日常生活のコミュニケーションの中から以前の暮らし方や生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別支援計画作成時、その他必要に応じてアセスメントを行い、本人の心身状況について把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人と家族の希望や意向に添いながら、訪問看護師の助言や職員からの意見を聞き作成し、定期的な評価・見直しを行っている。利用者の状態に変化が生じた場合には、目標期間にかかわらず随時介護計画を見直している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望を聞き、管理者や計画作成担当者、居室担当職員で話し合い、利用者一人ひとりにそった介護計画を作成している。 毎月の職員会議でモニタリングを行うとともに、6ヶ月毎に介護計画を見直している。 利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常生活の様子など個人に関する状況は、個別生活記録に記入し、ケアの実践はケアチェック表に記入している。その各記録を介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	浴室へ階段を設置して、安全に入浴できるよう対応している。また、帰宅願望者が外へ出たい時には、職員と本人と外へ出て気分転換を図り落ち着いて生活して頂けるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加を通して、昔培った能力を発揮できるよう藁細工作成等楽しく生活できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	アセスメントで、利用者や家族等が希望するかかりつけ医を把握するとともに、家族と協力してかかりつけ医や専門医への受診に付き添うなどの支援をしている。時には、バイタルサインの記録を持参してかかりつけ医へ持参するようになっている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医を確認し、かかりつけ医への受診は基本的には家族等が対応をしているが、都合が付かない場合には職員が通院介助をするとともに、協力医療機関へも職員が通院を支援している。 受診結果は、利用者の状況や薬が変わった際には面会時や電話で報告をしている。 訪問看護師が毎週水曜日に来訪し、利用者の健康チェックをしたり、24時間電話で連絡が取れる体制が整っており、利用者の安心につながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気になる情報や気づきを、業務日誌へ記録しておいて週1回の訪問看護師へ伝え相談するようになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院からサマリーの提供依頼がある時、提供するようにしている。また、退院時は、カンファレンスの開催や看護サマリーにより情報を頂き、医療機関との協働に努めている。それでも疑問に思うことは、直接病院へ電話して情報を得るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の支援は行わないという事業所の方針を利用者や家族等に口頭で説明しているが、書面による同意を得るまでには至っていない。	「重度化や終末期の支援は行わない」とした事業所の方針を利用者や家族等に口頭で説明しているが、書面で同意を得るまでには至っていない。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を代表者や職員で話し合い、事業所でできることとできないことを明文化して利用者や家族等に説明し、書面で同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の勉強会にて急変時の対応方法について話し合い、家族や主治医の連絡一覧を作成したり、急変時の連絡順番を張り出す等速やかに対応できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練を計画・実施をしている。運営推進会議において災害時における近隣住民の協力を呼びかけるようにしている。	夜間想定を含む避難訓練を毎月実施し、避難訓練後に反省点や課題などを話し合っているが、記録に残すまでには至っていない。 運営推進会議で避難訓練に地域住民の参加を呼びかけてはいるが、参加を得るまでには至っていない。 災害に備えて飲料水やパンの缶詰、懐中電灯などを用意しているが、備蓄品リストを作成して品目や数量、賞味期限を管理するまでには至っていない。	運営推進会議で継続して避難訓練について話し合い、地域住民の参加を働きかけるとともに、避難訓練後に全職員で反省点や課題など、話し合ったことを記録に残し、次回の避難訓練に活かすことを期待する。 備蓄品一覧表を作成し、賞味期限などを記載して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格を把握して、対応について全職員で情報共有している。入浴・トイレ使用時は、廊下から見えないようにドアの開閉に注意し対応している。	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、常に職員で話し合い、利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 入浴介助は利用者の状況に応じて対応し、基本的には一人ずつ入浴支援をしているほか、トイレ介助の際には必ずドアを閉めるなど、プライバシーを損ねないように対応している。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメント段階で、利用者の希望を把握するようにしている。担当職員等が随時利用者の希望を聞いて、自己決定できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時湯船に入り、上がる時は本人の上がりたいた時に上がってもらったり、食事後すぐ横になってしまう利用者に対しても、本人の希望を優先して昼で横になって過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、着替える衣類を選択できる利用者には、入浴前職員と利用者で選ぶようにしている。洗顔や整容できる利用者には、声掛けにて行って頂けるよう対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年に数回程度食事形態に合わせて、外食ドライブやおやつドライブを計画して実施している。毎食時、利用者と職員が一緒にテーブルで食事をし、家庭的な雰囲気大切にしている。	職員は利用者と一緒に食卓を囲んで同じ食事を摂り、利用者の食事介助をしながら見守りや声かけをしている。 利用者は職員と一緒にお盆拭きやテーブル拭き、タッパーのふた閉めなど、利用者の能力に応じた役割を担っている。 レクリエーション担当職員が行事計画を立て、利用者の要望を取り入れて大型スーパーでおやつを食べたり、ドライブを兼ねて外食を楽しんだりしているほか、正月料理や敬老会には特別食を提供し、利用者が食事を楽しめるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は、毎回チェック表へ記録している。食べる量について、摂取量が少なくなってきた利用者については、日誌へ記入したり1週間分の記録表を使用して栄養バランスを確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい水を飲んでむせてしまう利用者へはガーゼを使用して口腔内を清潔にしたり、自分の歯がある利用者へは、歯ブラシ使用して歯磨き行ってもらっているようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	以前から紙パンツ、パット使用されていた方も見直しを行い、おむつ使用減らすためパットに布パンツへ変更して対応している。歩行可能であれば時間でのトイレ誘導をできるだけ行うようにしている。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。 夜間はおむつを使用している利用者でもトイレ誘導をしてトイレで排泄ができるよう支援をしている。 紙パンツとパッドを使用していた利用者に対し、布パンツとパッド使用に変更してなるべくおむつの使用量を減らすよう努めた結果、利用者の中には紙パンツから布パンツに変更ができ、トイレで排泄ができるようになった利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や散歩など適度な運動の実施や水分の摂取支援を行い、根菜料理を取り入れる等便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	比較的自立度の高い利用者には、希望を確認したり、病院前に入浴したい等の希望に添った入浴を行っている。	入浴は基本的に週2回から3回午後に支援をしているが、利用者の希望にそって入浴ができるよう支援に努めている。 浴槽の縁に階段を設置するほか、シャワー椅子や手摺を設置するなど、安全に入浴ができるよう工夫をしている。 入浴を拒む利用者には声かけをしたり、馴染みの職員が対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々に応じて足の浮腫等がある利用者には、1時間程度休んで頂いたり、自立度が高い利用者には自由に居室で休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに閉じた処方箋にて薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、その後服用してみてもの状態の変化について、業務日誌や排泄管理表へ記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で居室の掃除や、外へ出たい利用者へは、ゴミ捨てを兼ねて散歩したり、一人ひとりの嗜好品を入居前のアセスメントやその都度確認して楽しく生活して頂けるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節応じて、お花見や外食ドライブへ出掛けられるよう支援している。暖かくなってきたので、天気の良い日は玄関前を出て日光浴をするようにしている。	利用者は天気の良い日には散歩に出かけたりしているほか、玄関先の庭のベンチで日光浴を楽しみ、気分転換が図れるよう支援をしている。 月1回程度の外出支援をレクリエーション担当職員が計画し、季節の花見や外食ドライブ、大子の道の駅、紅葉狩りなどを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力が低下している利用者に対しては、家族と相談して事業所において管理をして、収支報告を行っている。金銭所持の希望がある場合は、家族と協議を持ち理解を得た上で、買い物などお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、家族からの差し支えない範囲を確認しておき、電話の対応を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニングの共有空間からは、梅や桜など季節を感じられる庭を見渡せるようになっている。また、共有空間内の掲示には、当月の行事や季節の歌を掲示するようにしている。	居間兼食堂は広く明るい空間となっており、その一角の畳敷きのスペースにはソファを配置している。 大きい窓ガラスから四季の移り変わりを感じられ、ゆったり過ごせる空間となっている。 四方がガラス張りとなっている中庭があり、日光が差し込んで明るく、利用者が樹木などを眺めながら心地よく過ごせるよう工夫している。 居間やトイレ、浴室などはいずれも清潔に保たれ、利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の畳スペースには、座卓とソファを配置、フローリングスペースにもソファや椅子、廊下へも椅子を配置して、利用者個々が思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、テレビや雑誌、家族写真などを持ち込んでもらい、居心地のよい居室作りを行っている。	契約時に馴染みの物品を持参してもらえよう説明している。 居室はカーテンや整理筆筒、ベット、エアコンが備え付けられている。 利用者は家族等と相談してテレビやぬいぐるみ、家族の写真、カレンダー、籐椅子などを持ち込み、利用者好みの居室で居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部へ手摺りを設置し、浴室内部も滑り止めを敷き、階段を設置して安全に利用して頂けるようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 サングリーンピア山方

作成日 平成26年10月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	玄関より出て行ってしまいう利用者がいらっしゃるの で、安全確保により、日中	玄関の鍵をかけずに安全に 過ごせる取組みを行う。	全職員で月1回の職員会議に て玄関の施錠について話し合 い、玄関センサー音を活用し て施錠せず安全に過ごせるよ うにする。	3ヶ月
2	10	無記名アンケートについて内 容を検討中であるが、実施す るまでには至っていない。	無記名アンケートを活用し、 家族の意見、要望を業務等へ 反映	無記名アンケートを作成し家 族の意見や要望を聞いて、職 員間で話し合い、事業所の運 営に反映させていく。	3ヶ月
3	33	重度化や終末期に向けた事業 所の対応方針が名文化されて おらず書面	重度化や終末期の場合、事業 所での対応は困難である説明 を書面による同意を	事業所としてできることとで きないことを書面で明文化し、 利用者や家族等へ説明して同 意を得る。	6ヶ月
4	35	夜間想定を含む避難訓練を毎 月実施し、避難訓練後に反省 点を記録へ残すまでには至っ てい	避難訓練後に全職員で反省点 など、話し合ったことを記録へ 残し、次回の訓練へ活か	避難訓練後の反省点を記入す る用紙を作成し、反省点を職 員間で話し合い、記録へ残し、 次回の避難訓練へ活か	3ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。